

牧野リハビリ病院オープン

医療法人社団青葉会、4月1日に

回復期、療養を各60床整備

在宅復帰 拠点施設 横浜北部医療圏の柱に

戸田中央医科グループ(＝TMG：中村隆俊会長)は1日、グループ内で29番目の病院となる「医療法人社団青葉会 牧野リハビリテーション病院」(中村毅理事長、大平孝之院長、横浜市緑区)をオープンした。回復期リハビリテーション病棟60床、療養病棟60床を整備し、内科、神経内科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科を標榜する同院は、患者の在宅復帰への拠点施設として、TMGの関連施設を含む周辺医療機関とも緊密に連携を図りながら、横浜北部医療圏における地域包括ケアシステムの大きな柱となることをめざしている。



4月1日にオープンした牧野リハビリテーション病院の外側

グループの理念である「愛し愛される」にもとづき、病院理念として「あなたがたかな医療で愛される病院」「地域医療を一人ひとりを大切に

療への貢献」を、基本方針として「細かな気配りと笑顔で安全・安心な医療を提供します」「患者さま一人ひとりを大切に



大平孝之院長

「コアウォール」と呼ばれる壁面には、四季の移り変わりを表現した、桜、若

し、また人權を尊重し、医療チームで回復・療養をサポートします」を掲げ、このたび誕生した牧野リハビリテーション病院。地上3階建て、延べ床面積約5165㎡の院内には、患者の在宅復帰

や療養をサポートする様々な設備、アメニティが整備されている。エントランスを入ると正面に待合、右側に受付、左側には扉や仕切りで隔てることなくリハビリテーション室を配置。

約350㎡の広々としたスペースが確保されたリハ室は、最新のリハビリ機器が数多く導入されたほか、大きな窓も設置し、明るく開放的な雰囲気となっている。中心部に設置した「コアウォール」と呼ばれる壁面には、四季の移り変わりを表現した、桜、若

約350㎡の広々としたスペースが確保されたリハ室は、最新のリハビリ機器が数多く導入されたほか、大きな窓も設置し、明るく開放的な雰囲気となっている。中心部に設置した「コアウォール」と呼ばれる壁面には、四季の移り変わりを表現した、桜、若

また、2、3階の病棟には、各階に個室を4室(特別室1室を含む)、合計8室を整備。リハ室のコアウォールと対応させるかたちで各フロアを

春夏秋冬の4ブロックに分け、配色を施した。さらに3階の療養病棟の浴室には、患者が横になつたまま入浴できる最新式の機械浴槽を2台設置。建物の南側に配置された病室からは、窓越しに竹林の景観を望むことができると、患者は豊かな自然に囲まれながら療養生活を送ることが可能。



南側の病室からは窓越しに竹林を望める

や尊厳を回復していく思いが込められた。TMG29番目の病院として誕生した同院では、グループが近隣で運営する「牧野記念病院」や介護老人保健施設「牧野ケアセンター」をはじめとした周辺医療機関・介護施設・事業所との連携はもとより、横浜北部医療圏以外の横浜市、川崎市、相模原市、東京都町田市などの病院等からも患者を受け入れ、診療連携を図りながら、質の高い回復期医療と慢性期医療の提供に努めていくとしている。